



しみずしげみ
清水茂実さん

● 田沼西中 3 年

震災で学んだ 感謝の心

僕は将来、救助関係の仕事に就きたいと考えています。

きっかけは東日本大震災でした。多くの人が家族を失い悲しみにくれる中で、救助をする人やボランティアの方々が必死に活動に取り組む姿が印象に残っています。今回の震災で、自分自身も今まで周りの人に支えられてきたことに気付き、忘れてしまった感謝の気持ちを思い出す機会にもなりました。

将来は困っている人を必死になって助けられるような大人になりたいです。

みんなの広場に 出てみませんか？

「キラリ★話題の人」「すてきな仲間たち」「めもと人生」に登場していただける方を募集しています。

自薦・他薦は問いません。

※「すてきな仲間たち」「めもと人生」は隔月で掲載します

■問合せ

政策調整課広報聴係

☎(20)3037

すてき **仲間たち**

佐野テニス協会



▲平成23年8月に開催した「さのラーメンカップ」

○連絡先 佐野テニス協会事務局

田村貞明 ☎090 (8724) 4001

ホームページ <http://www.sano-tennis.com/>

大会の情報など、随時更新しています。
ぜひご覧ください。

佐野テニス協会では、『市民が身近で気軽にスポーツを楽しめる環境づくり』に、テニスを通じて取り組んでもらいたいと考え、活動しています。

ジュニアからシニアを対象としたテニス教室や、年齢別やレベル別、ダブルスやチーム対抗などテニスを楽しむ皆さんがそれぞれのレベルに応じて、気軽に・楽しく参加出来る大会を随時開催していますので、ぜひご参加ください。

また、「体が動くからテニスをしている」と思われることが多いのですが、実は見方が逆で、「運動しているからこそ体が動けるようになっている」と言えます。皆さんもテニスを楽しむことで、病気を克服しましょう。生涯を彩るスポーツとして、皆さんもぜひ、テニスを楽しんでください。



今回の表紙 「さのまるとジャンプ」 くずうフェスタ2012にて

5月12日(土)に葛生あくとプラザとその周辺、および葛の里壺番館で開催されたくずうフェスタ2012。葛の里壺番館の会場では、縄飛び大会が開催されました。

この大会では、市ブランドキャラクター「さのまる」も縄飛びに挑戦。大勢の子どもたちの声援をうけ、大きな体を揺らしながら、連続3回飛べました。

あらいしげみつ
新井重光さん
(出流原町)

○プロフィール
昭和12年4月20日生(75歳)
関東還暦軟式野球連盟常任理事、
栃木県還暦軟式野球連盟会長、
佐野市野球協会会長、
NPO法人佐野生涯野球倶楽部理事長、
佐野還暦野球クラブ監督



生涯現役、
野球大好き人生

小学生の時から長く野球を続けてこられた新井さんは、地元のソフトボールで活躍されていた平成8年、58歳のとき、元プロ野球選手のアドバイスを受け、還暦野球チームを誕生させました。

最初は25人でのスタートで、実績がないこともあり練習試合の相手を見つけるのも苦労したということです。現在は還暦、古希(※70歳)を合わせて40人のチームメイトに囲まれ、現役選手として、また、監督として野球を楽しんでいます。

実際に練習の様子を拝見しましたが、開始前と後にはたっぷり時間をかけてストレッチを行います。これが怪我を最小限に留めているということ。週2回の練習と公式戦約50試合への参加で、年間約150日間ボールを追いかけるには大変なことであり、新井さんの手抜きしない姿勢が伺われます。そして「何といっても女房の手料理が一番！栄養管理も完璧で、健康でいられる源です」と奥さまへの感謝の気持ちも忘れていません。

これまで全国生涯野球大会で2度の優勝の実績がありますが、新井さ



▲チームメイトとともに

んの目標はいつでも全国大会の頂点に立つことであり、「試合には平常心でのぞみ、負ける気にならないことが勝つ喜びに繋がる。これからも打って走って投げて頭を使つてと、生涯現役を目標に身をもって実行していきたい」と話してくれました。

足利工業高校時代には甲子園を目指し汗を流しましたが叶わず、その夢は息子さんが頑張つて実現されたそうです。そして今、お孫さんの学童野球の指導にも足を運んでいる新井さんには暇な時間などひと時もないようです。

最後に、新井さんは皆さんに呼びかけていました「仲間は一人数でも多い方がいい。一緒に野球を楽しみましょう」と。(市民記者 山崎ちか子)

市長からの
メッセージ



梅雨に入り湿気が多い日が続いています。

少し前になりますが、佐野厄除け大師の前ご住職、旭岡聖順さんが逝去され、先月告別式が多くの方の参列者の中、厳かに執り行われました。旭岡さんは社会福祉活動に熱心な方で、市政功労や紺綬褒章も数多く受章されました。文化振興事業団の理事長や、教育委員会委員長としてご活躍いただいたほか、本市の観光立市についても深い理解を示され、佐野市を広くPRして頂きました。本当に惜しい方を亡くし、残念な思いで一杯です。個人的にも恩師として教えを受けたことなどが思い出され、雨に濡れる紫陽花を見ていると何かと故人が偲ばれるこの頃です。

さて、先月は各種団体の総会などが数多く開催され、市民の皆さんとお話する機会が多くありました。ボランティアやNPO団体、町会、福祉、教育、商工業、農林業、建設業、防犯・防災関係団体など、私も時間の許す限り出席させて頂きました。お話を聞くと、長引く経済不況の中、関係者の皆さんがいろいろと創意工夫して事業を進めていることがよく分かり、頭の下がる思いがします。

本市も健全財政を堅持しているとはいえ、依然として厳しい行財政運営であることには変わりはありません。大規模なものだけでも、新庁舎建設をはじめ、消防庁舎や保育園の建設、小中学校の耐震化、産業団地の整備、インランドポート推進など、計画的に迅速に進めていかねければなりません。本市の恵まれた高速交通網を活かす幹線道路についても、東部幹線、山形寺岡線(赤見バイパス)や県道桐生岩舟線、市道1号線などの整備を進めていく必要があります。今年度予算の特色である「将来を見据えた投資」を効果的に実施したいと思っております。市民の皆さんのご理解ご協力をよろしくお願い致します。

岡部正英